



桐原まち協

10年の
あゆみ

桐原学区協働まちづくり協議会

も く じ

●まち協会長あいさつ	P2
●自治連合会会長あいさつ	P2
●近江八幡市長あいさつ	P3
●まちづくり支援課長あいさつ	P3
●学校長あいさつ	P4～5
●まち協10年間の役員名簿	P6
●まちづくり協議会組織図	P7
●桐原学区災害対策組織図	P8
●自治連合会の活動	P9

●総務広報部会	P10～11
●生涯学習部会	P12～14
●生涯体育部会	P15～17
●健康福祉部会	P18～21
●人権推進部会	P22～24
●人材育成部会	P25～27
●防災安全部会	P28～30
●地域環境部会	P31～32
●桐原きりこちゃん	P33
●思い出ギャラリー	P34
●編集後記	P34



桐原学区協働まちづくり協議会 10周年を迎えて

桐原学区協働まちづくり協議会
会長 馬場 清一



桐原学区まちづくり協議会が、産声をあげて10周年を迎えるに当たり、これまでの学区事業の計画・運営に携わって頂いた歴代の役員の皆さんと参加協力をして頂いた学区民の皆様に感謝とお礼を申し上げます。

さて、前市長の富士谷氏の発案により学区運営を官から民への移行で、より細やかで地域特性を生かした学区運営が出来るとの考えで、まちづくり協議会が誕生しました。しかしながら発足した当初は、学区民の殆どの方が、まちづくり協議会とは何か？何をするのか・何故必要なのかという事を理解してもらえず説明に苦労したのを思い出します。それを歴代の役員の方々の努力・活動を通じて徐々に学区民の皆さんに、まち協を理解し受け入れて頂けたと感じています。今後は、まちづくり協議会の目標である「しあわせ」「豊かさ」「活力」のある地域づくりに全役員・各種団体の皆さん・コミセン職員の全員が力を合わせ叡智を結集し、更なる発展を目指し、そして安全で安心して暮らせる桐原学区を築ける様に邁進してまいりますので、学区民皆様のまちづくり協議会への益々のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

桐原学区協働まちづくり協議会 10周年誌発刊を祝して

桐原学区自治連合会
会長 松岡 静司



桐原学区まちづくり協議会が記念すべき10周年ならびに記念誌発刊を、桐原学区自治連合会を代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

桐原学区協働まちづくり協議会の歴代の役員の方をはじめ協働まちづくり活動にご尽力されておられます皆様においては、地域住民の主体・住民主導の活動を促進し「しあわせ」「豊かさ」「活力」のある地域社会づくりに献身的に活動いただいている事、心から敬意を表します。

自治連合会としても、同じ目的に向かって、地域住民の為、共同で支援、活動していく所存でございます。

そのためにも、自治連合会としても、各自治会が元気で、安心・安全な・まちづくりを推進してまいります。

結びになります、10周年を契機に更なる住民主導の一步を踏み出され、ますますの桐原学区協働まちづくり協議会が発展されますよう祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

お祝いのことば

近江八幡市長
小西 理



桐原学区協働まちづくり協議会が発足10周年を迎えられ、『10年のあゆみ』を発刊されることに対しまして、心よりお祝いを申し上げます。

桐原学区では、平成20年12月に、まちづくり協議会を立ち上げられ、コミュニティセンターを核として学区自治連合会、各種団体他、地域住民の皆様とともにたゆまぬご努力により「しあわせ」「豊かさ」「活力」のある学区づくりを実践されてこられましたことに深甚なる敬意と感謝を表する次第です。

さて、桐原コミュニティセンターは平成28年度に桐原小学校・こどもの家とのコミュニティエリア一体整備により子どもたちがのびのびと育ち、地域の皆様が支え合い、共に学び合い、また、防災拠点として安全安心を実現できる施設となりました。

貴協議会におかれましては、当施設を十分に活用いただき、なお一層住みよいまちづくりに精進され、ますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。

「10年のあゆみ」発行によせて

近江八幡市総合政策部まちづくり支援課

課長 中川 奈穂子

桐原学区協働まちづくり協議会「10年のあゆみ」を発行されることに対しまして、お祝い申し上げます。

桐原学区は、市内で最大規模の学区として、スケールメリットを活かし、安心安全、健康福祉、環境、次世代育成、ふるさと文化育成、人権など多方面にわたり、各種団体の連携の元、課題解決に向けた、様々な取り組みを展開されています。昨年度は、まちづくり協議会のホームページを立ち上げ、地域への新たな情報発信もされました。また、当初の計画外の事業にも取り組まれ、今後の新たな事業展開も期待されます。

「10年のあゆみ」の発行を機に、地域の絆をさらに深められ、今後ますますの桐原学区協働まちづくり協議会の発展を心よりお祈り申し上げます。

～桐原まち協10周年に寄せて～

桐原学区協働まちづくり協議会が発足して10年の節目を迎えられ、その歩みを記念として発刊されますことに、心よりお祝い申し上げます。

地域の皆様に見守られ、支えられながら、素晴らしい環境の中で子どもたちが学校生活を送れることに深く感謝申し上げます。

これからも、「しあわせ」「豊かさ」「活力」を一層感じることができると桐原学区に発展されますことを心よりお祈り申し上げます。

近江八幡市立桐原小学校
校長 村地 信彦



桐原学区協働まちづくり協議会発足10周年を迎えられ、ここに記念誌が発刊されますことに、心からお祝い申し上げます。

日頃より地域の皆様には、本校教育活動にご理解・ご支援を賜り誠にありがとうございます。今後も地域とともにある学校をめざして参ります。

今後さらに、「しあわせ」「豊かさ」「活力」のある学区として、一層発展されることを祈念いたしますとともに、引き続き本校への支援もお願いし、お祝いの言葉といたします。

近江八幡市立桐原東小学校
校長 木場 佐知子

本年度、「桐原学区協働まちづくり協議会」が発足して10年の節目を迎え、新しいコミュニティセンターを核として、賑わいのある学区作りされていることに心からお祝い申し上げます。

私個人的には15年間程お世話になり、八幡西中学校は青少年育成事業等で見守っていただいています。これからも人と人との繋がりを大切にして、「しあわせ」「豊かさ」「活力」のある学区作りを目指して、ますます飛躍発展されますことを祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

近江八幡市立八幡西中学校
校長 田中 豊之



～桐原まち協10周年に寄せて～

桐原学区協働まちづくり協議会10周年おめでとうございます。まちづくり協議会を通して桐原幼稚園も、たくさんの支援をしていただいていると思っています。私は、桐原幼稚園に赴任して6年目を迎え、桐原学区のあたたかな地域の雰囲気、そして協議会目標である「しあわせ」「豊かさ」「活力」を感じています。地域を支えるまちづくり協議会。地域の方々が今後も安心して「しあわせ」に生活できるよう協議会のますますの発展を願っています。

近江八幡市立桐原幼稚園
園長 大野 康記



桐原学区協働まちづくり協議会が10周年を迎えられ、本記念誌を発行されますことを心よりお祝い申し上げます。桐原保育所は秋の文化祭で子ども達の絵画作品や5歳児の歌の発表の機会を頂いたり、老人クラブ連合会さんのクリスマス訪問や、民生委員児童委員さんの人形劇鑑賞会など、子ども達の健全育成に様々な支援を頂いております。今後とも桐原協働まちづくり協議会の皆様のご指導とご協力、ご支援を心からお願い申し上げます。

近江八幡市立桐原保育所
所長 辻 好子

桐原学区協働まちづくり協議会10周年誠におめでとうございます。協議会が創立され、「安心安全な、住みよい桐原学区」を目指して取り組まれてこられました全ての方のご尽力により、今日の礎が築かれましたことに深く敬意を表します。また、教育機関並びに子育て支援に多大なるご支援を賜っていますことに、心より感謝申し上げます。今後、更に発展充実されますことを祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

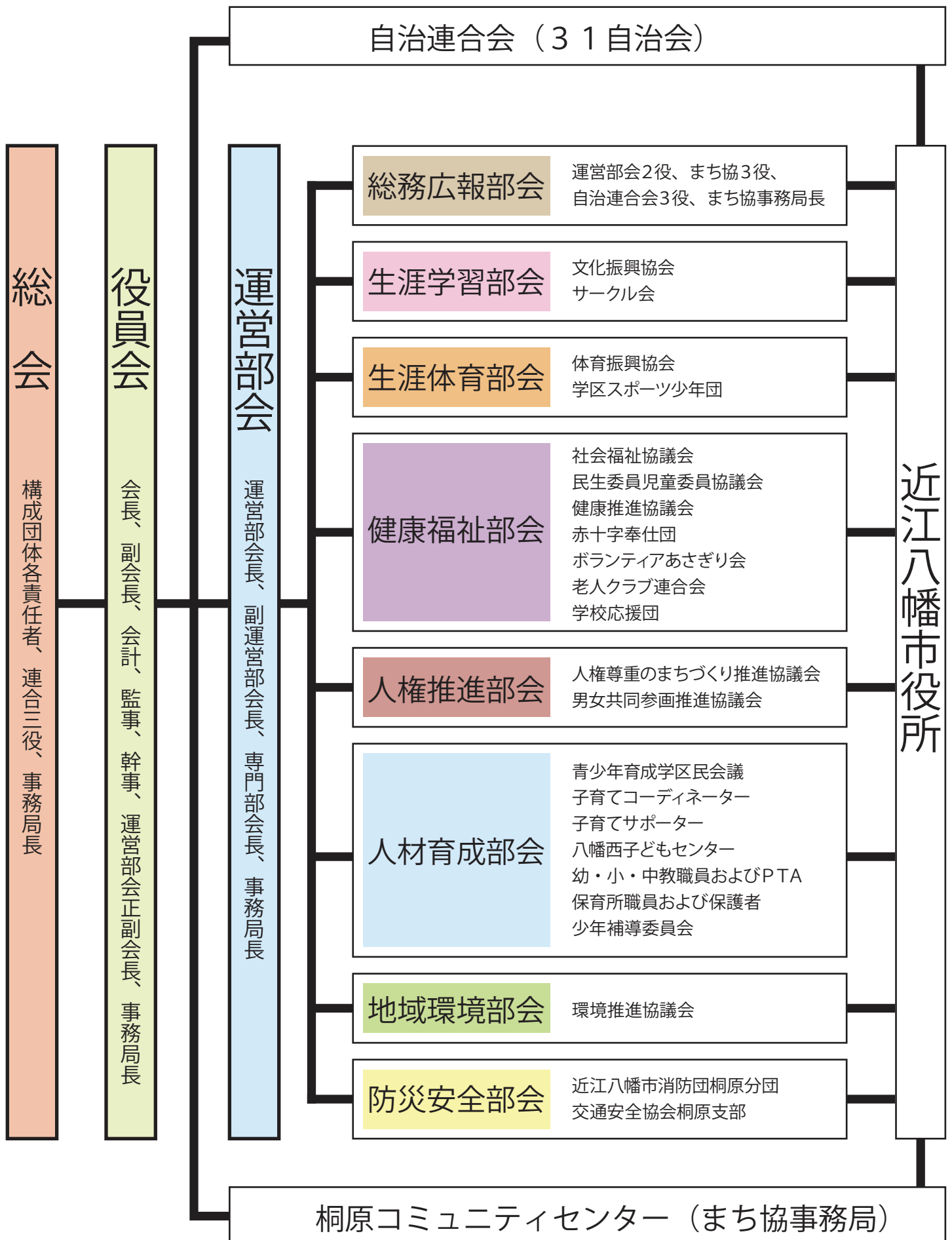
近江八幡市立八幡西子どもセンター
センター長 中江あい子



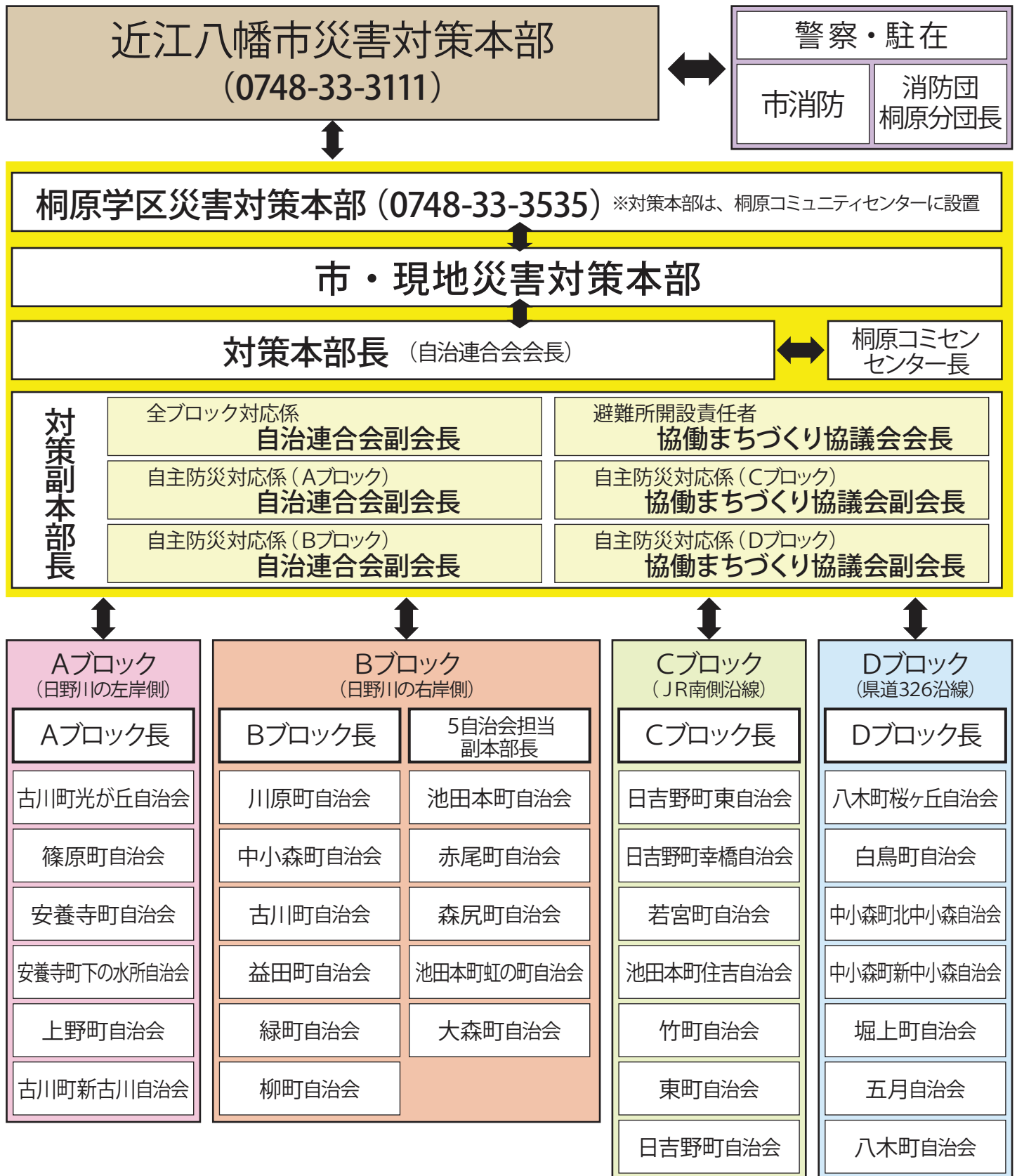
桐原学区協働まちづくり協議会 役員名簿

	近江八幡市	協働まちづくり協議会	(連合自治会) 自治連合会	文化振興協会	体育振興協会	社会福祉協議会	民生委員児童委員協議会	健康推進協議会	赤十字奉仕団	あさぎり会	老人クラブ連合会	人権尊重のまちづくり推進協議会	男女共同参画推進協議会	青少年育成学区民会議	環境推進協議会(さわやか環境)	消防桐原分団(第五分団)	交通安全協会桐原支部	コミュニティセンター(公民館)
	市長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	支部長	館長
平成20年度	富士谷英正	赤部豊尚	赤部豊尚	西山茂男	馬場清一	平田富夫	松岡一彦	石塚良枝	田尻英子	渡辺博子	芦刈勝美	平井脩治	―	―	―	重田市広	向井一朗	中村米次郎 鎌田 豊
平成21年度	富士谷英正	平井脩治	平井脩治	藤居義乃武	馬場清一	中村明彦	松岡一彦	石塚良枝	田尻英子	宿村英子	渡邊俊一	谷端 環	―	黒木 忠臣	―	重田市広	向井一朗	北川 誠次 鎌田 豊
平成22年度	富士谷英正	平井脩治	平井脩治	福原修太郎	馬場清一	中村明彦	松岡一彦	森脇美智子	辻本よし子	荒井しず江	渡邊俊一	西山茂男	―	中嶋喜久雄	嶋岡重信	重田市広	向井一朗	北川 誠次 富岡課長
平成23年度	富士谷英正	中嶋喜久雄	中嶋喜久雄	中西善英	馬場清一	中村明彦	大黒 謙	森脇美智子	辻本よし子	荒井しず江	芦刈勝美	宿村栄一	―	西山茂男	嶋岡重信	重田市広	向井一朗	福原修太郎
平成24年度	富士谷英正	中西善英	中村明彦	寺町正信	馬場清一	大橋正光	大黒 謙	宮島俊江	堀井律子	河内智恵子	芦刈勝美	宿村栄一	―	西山茂男	嶋岡重信	山本正弘	向井一朗	岡谷貞佳
平成25年度	富士谷英正	中西善英	中村明彦	寺町正信	馬場清一	大橋正光 谷川 弘	大黒 謙	宮島俊江	堀井律子	河内智恵子	北川佐一	宿村栄一	―	西山茂男	嶋岡重信	山本正弘	向井一朗	岡谷貞佳
平成26年度	富士谷英正	中村明彦	中村明彦	小川九一郎	馬場清一	川橋袖子	寺町正信	堀井律子	田中敏子	野田雅子	山本幸彦	宿村栄一	中西善英	谷川 弘	嶋岡重信	山本正弘	向井一朗	岡谷貞佳 寺町正信
平成27年度	富士谷英正	馬場清一	西 恭一	小川九一郎	古野守峰	川橋袖子	寺町正信	堀井律子	田中敏子	野田雅子	嶋岡重信	米山幸伸	中西善英	谷川 弘	佐々木信夫	山本正弘	向井一朗	寺町正信
平成28年度	富士谷英正	馬場清一	中村明彦	馬場清一	末永 茂	川橋袖子	寺町正信	荒井しず江	森脇美智子	宮島俊江	嶋岡重信	米山幸伸	中西善英	谷川 弘	佐々木信夫	山本正弘	向井一朗	西 恭一 菅原 昭
平成29年度	富士谷英正	馬場清一	中村明彦	田中 淳	馬場清一	川橋袖子	寺町正信	荒井しず江	森脇美智子	黒木 忠臣	嶋岡重信	米山幸伸	森岡孝文	谷川 弘	佐々木信夫	山本重成	向井一朗	菅原 昭
平成30年度	小西 理	馬場清一	松岡静司	田中 淳	小西信弘	加藤克彦	寺町正信	武山きみ子	久保紀子	田中敏子	上森昭平	米山幸伸	森岡孝文	三上英夫	佐々木信夫	山本重成	向井一朗	菅原 昭

桐原学区協働まちづくり協議会組織図



桐原学区災害対策組織図



- 【日野川関係】 水位 1.8m 桐原分団警戒出動開始 (分団から、まち協・連合双方の会長に連絡する)
 水位 2.5m 対策本部長からセンター長へ、センター開放を指示する。
 水位 3.0m 氾濫注意水位
 水位 3.8m 住民は避難判断

【地震発生】 震度「5」以上の場合はコミュニティセンター開放。学区災害対策本部開設

【火災発生】 各自治会長より避難所開設の要請があった場合コミュニティセンター開放

※民生委員児童委員・赤十字奉仕団等は各自治会内でそれぞれの役割を担い、行動する。



桐原学区自治連合会

●河川清掃

11月23日（祝）
を施行日と定め、日
野川・白鳥川・藤間
川の清掃を行ってい



ます。平成25年からは環境推進協議会のメンバーも加わり、
広範囲に及ぶ河川敷の隅々まで手が行き届くようになりました
が、軽トラック2杯分のゴミを収集する年もあります。

●文化祭模擬店出店

文化祭における連合のうどん屋は、くちコミで学区民の
間に浸透され、もはや時の風物詩となっています。低価格
の設定も手伝ってか、500食
のうどんが午前中には完売する
という人気の出店のひとつで
す。売上金は全て歳末たすけあ
い募金に寄付しています。



●安全安心対策

新コミュニティセンターへ移転
してから駐車場への出入り口に「止
まれ」の白線を引いたり、LEDの
看板を設置するなど住民に優しい
対策を施行しています。また、各
自治会に防災無線を配備し、災害
対策にも力を注いで
います。



●31自治会の成り立ち

※…昭和36年以前 *…昭和36年度の自治会長

自治会名	設立年	初代自治会長
竹町	※	仲川 広一*
東町	※	馬場 藤蔵*
池田本町	※	大橋 貞次*
池田本町住吉	※	田中 善次郎*
池田本町虹の町	昭和48年	向井 勝治*
川原町	昭和52年	長澤 正義*
安養寺町	※	爪 澄*
安養寺町下の水所	昭和49年	関 利武
篠原町	昭和53年	早川 憲義
上野町	※	田中 亀次郎*
古川町	※	南 順二*
古川町新古川	昭和57年	森神 源造
古川町光が丘	平成8年	細野 虎夫
緑町	昭和50年	奥内 孝男
柳町	昭和51年	石田 和秀
益田町	※	今井 信治*

自治会名	設立年	初代自治会長
森尻町	※	大橋 福松*
赤尾町	※	大橋 伊惣治*
中小森町	※	中島 定信*
中小森町新中小森	昭和50年	原田 登
中小森町北中小森	昭和56年	前川 浩二郎
大森町	※	西 喜代治*
堀上町	※	矢掛 善治*
五月	昭和50年	田中 潔
白鳥町	※	宮田 喜久雄*
日吉野町	※	小林 繁松*
日吉野町東	昭和49年	伊野 幸雄
日吉野町幸橋	昭和49年	森定 利美
若宮町	※	大黒 良吉*
八木町	※	上野 金造*
八木町桜ヶ丘	昭和49年	山田 義治

総務広報部会

総務広報部会は桐原学区まち協傘下8部会の一つとして、まち協三役・自治連合会三役・まち協運営部会二役により組織されます。広報活動・研修その他、まちづくりに関わる総合的な事業活動に取り組みます。

基本方針

桐原コミュニティセンターを桐原学区住民のコミュニティセンターと位置づけ、生涯学習・生涯スポーツ・地域自治や地域福祉等の活動拠点として管理運営と共に地域情報発信基地として広報活動を行う。

●まちづくり協議会 創立総会

協働のまちづくり条例は市民と行政が適切な役割分担のもと、協働してまちづくりを進めることを目的に平成20年4月から施行されました。公民館時代が終わり地域コミュニティセンターへ転換するために当時の公民館運営委員会メンバーは地元協議、先進地研修会等を重ねることにより具体的運営の知識を積み重ね平成20年12月19日に創立総会を開催するまでこぎつけました。

●まちづくりフェスティバル

インフルエンザの流行により文化祭が取りやめとなったため学区民は湧き出る力を発揮する機会を求め



平成24年3月13日

ていました。そこで、平成22年3月14日に旧コミュニティセンター前と駐車場の小エリアにて第1回が開催されました。まだ寒さも残る日曜日ではありましたが、事前PRと各役員の配慮の深い事前準備が功を奏し、多数の老若男女が参集し盛大に開催することが出来ました。フェスティバルにおいて参加してくれた市民に「ゆるキャラデザイン」を募集、現在の「きりこちゃん」が生まれるきっかけとなりました。このフェスティバルは第3回まで続きました。

●サマーフェスティバル

平成25年度に「おなかいっぱい 夢いっぱい 桐原学区サマーフェスティバル」が桐原東小学校を舞台に開催されました。文化祭や運動会が桐原西地区で開催されることから、桐原東小学校の創立30周年を記念して東地区での開催となりました。

テーマのひとつに「食の祭典」を挙げ、桐原学区で営業されている14の飲食店に自慢のメニューを模擬店としての出店をお願いし、定番のフリーマーケットと共に早くから完売に至り、うれしい悲鳴があがりました。

また、体育館では通常のステージや抽選会に加え、学校関係者の尽力により結成間もない滋賀県初のアイドルユニット「フルフルール」のメンバーにもご出演いただき、終日大いなる盛り上がりを見せました。



平成25年6月9日サマーフェスティバル 食の祭典

●まちづくり功労賞

広く地域における社会の模範となる善行や地道な活動を表彰して学区民の誇りと自信を高め、よりよい市民としての豊かな心と実践力を育成して行くこと、また、地域において社会の健全育成活動に顕著な功績のあった者を表彰することにより「しあわせ」「豊かさ」「活力」のある地域社会の構築に寄与することを目的として設立されました。「ふるさと文化」、「安全安心のまちづくり」、「健康福祉」、「次世代育成」、「長寿奨励」、「特別功労」等の部門があり、今までに個人功労賞20名、団体功労賞7団体が表彰されています。

●研修会

創立当初は条例の精神に則りまちづくりの先進地へ研修に出かけ、とりわけ三重県多気町の高校生レストラン、伊賀上野の町屋未来センターなど桐原学区のまちづくりに応用できる活動内容を探して先進地を訪ねました。

その後は地球温暖化に遠因すると見られる大雨や強大台風が多く発生するようになり研修会も自然と防災へと移っていきました。加えて、大地震による建物破壊、福島の大事故が発生による自然破壊が拡大するなど、今日に至っては自分達の地域や命は自分達で守るための防災研修はいよいよ必要になっています。



平成23年11月27日
三重県多気町 高校生レストラン



平成24年11月18日
伊賀上野 町屋未来センター



平成29年11月25日
神戸市垂水区 3世代交流防災訓練

●まち協だよりの発行

「公民館だより」から引継ぎ「まち協だより」は平成21年4月に創刊されました。各団体、自治連合会などの事業の事前記載と結果報告等を掲載する一方、市民から寄せられた「桐原むかしばなし」欄を設け「近隣近郷の先駆者に学ぶ」「桐原の方言」等を掲載して親しみやすい機関ニュースとしてスタートしました。

また、協議会としての収益事業への取り組みも課題であり、「軽トラ市」などを市民に紹介しましたが、芳しい結果は残せませんでした。しかし、平成23年9月から始まった紙面欄の広告掲載は現在までも各事業所のご協力を頂き当協議会の重要な財源の一つとなっています。

●コミュニティエリア移転について

コミュニティエリアの整備事業は旧桐原コミュニティセンター、桐原小学校、桐原幼稚園とも耐震性能面で不十分である事が判明した時点から始まりました。地元桐原では平成23年11月1日に「桐原学区コミュニティエリア再構築検討委員会」を立ち上げ、小学校、幼稚園、子どもの家、消防団など各団体の各担当者を決め、視察、見学、会合を繰り返して意見要望をまとめ上げて市側に申請しました。平成25年6月に「コミュニティエリア推進委員会」にバトンタッチし、整備事業を継続しました。35億8千万円の経費をかけて平成28年3月に学区民の大きな期待を担って現在の新生コミュニティエリアに移りました。